

International Women's Day

女性活躍の羅針盤

女性の視点で人材育成 ユニテックス社長・小杉恵美さん

磁気テープによるストレージ（記憶装置）の開発などを手がけるユニテックス（東京都町田市）で2021年春、創業家の父の跡を継ぎ、2代目社長に就いた小杉恵美さん。女性が少ない業界で20年ほど研さんを重ね、同社を成長に導いただけでなく、ジェンダー平等を念頭に誰もが働きやすい職場の環境づくりにも力を尽くしている。経営者として、双子の女兒の母親として、目指すのは皆が等しく輝ける未来だ。



「世界のあらゆる場所でデジタルデータが日々生み出されていますが、サイバー攻撃の脅威、莫大なデータの蓄積によるコスト、環境への負担が大きな課題になっています。そこで今、注目されているのが磁気テープです」

古くはオーディオカセットで知られる磁気テープ。現在は記憶できる容量が飛躍的に高まり、しかもオフラインでデータを安全に守り、低コスト、二酸化炭素（CO₂）の発生抑制にもつながるとして、脚光を浴びている。

同社は1990年の創業以来、一貫して磁気テープなどのストレージ事業を展開。組織を束ねる小杉さんの口調は簡潔明瞭でトップの姿そのもののだが、この業界で歩み始めた頃は苦労も多かったという。

大学で英文学を専攻し、卒業後はファッション業界に勤務。その後渡英し、フラワーアレンジメントの世界で精力的に働いていたが、創業者で父の土田義徳さんの勧めで帰国し、2003年に入社した。

子どもたちの未来のために

配属されたのは営業部。「入社当時、記憶装置の営業に女性は一人もいませんでした。手厳しかったですし、実績を残すしかなかった」

大学ノートに自社製品の利点などを書き込み、頭にたたき込んで現場を回る毎日。ロッカーは入社当初から続けたノートで満杯。「失敗してこそ」という前向きさで逆境に立ち向かったという。

営業部長だった2008年には双子の女兒を出産し、1年の育児を経て復帰。「送り迎えなど夫の力も大きいですが、育児しながら働く時間はやはり限られる。時間を絶対に無駄にしないと決め、効率的な使い方ができるようにになりましたね」

経営者として自らの経験を生かし、社員誰もが生き生きと働けるための制度設計に努

める。「当社で出産を機に退職した人はいません。育児やフレックスタイム、リモートワークなど制度は一般的なものですが、誰が産休に入ってもいいように互いにフォローできる態勢を取っています。それと気兼ねなく相談できる雰囲気、優しさを何より大切にしています」

リーダー職を希望する女性社員を対象にキャリアを積める道筋を用意。県内の企業人らでつくる「かながわ女性の活躍応援団」で唯一女性の応援サポーターも務めている。

今後は現在の25カ国から飛躍させ、50カ国への事業展開を視野に入れるが、海外の文化や特性に合わせた製品の最適化、ローカライズにも注力する考えだ。「女性はもちろん、グローバル化には人材の多様性が重要。充実させていきたいと思っています」

現在、2人の子どもの中学生。その姿を通して未来への思いをはせる。「2100年代は私たちがすると遠い先ですが、子どもたちはその年代も生きています。だからこそ、世の中を良くしなければいけない。そんな思いを今強くしていますね」



昨年1月に竣工した本社ビル。1階には開放的で明るいオフィスギャラリーを備える



女性社員ひと言

経理部・松浦幸子さん

「小学校と保育園に通う子どもが2人いますが、行事や保護者会などで半休を取らなくちゃいけないことも多くあります。上司が女性だからこそ相談できる部分はありますし、何より周囲が理解しようという雰囲気が心強いです」

営業部・藤原希さん

「子育ても仕事も大好き。今の職場にとってもやりがいを持っています。小学2年生と、2歳と4歳の子がいますが、どうしても下は体調を崩しやすい。テレワークなどを活用し、仕事と育児の両方に充実して取り組んでいます」